

市民の思いが詰まった

予算要望書を提出

要望総数は285項目

市民ネットフックちばの基本は市民参加と情報公開です。今回、ハガキやWEBアンケート、地域で活動している市民、団体の意見を要望に反映させました。新たに地球規模の気候変動への対応、コロナ禍での災害対策などを盛り込みました。安心して住み続けられる千葉市の実現に向けて声を出していきます。 (政策室)



10月28日千葉市長へ手渡しました

新しい課題にも対応した要望

- ▶ 千葉市気候非常事態宣言を発出すること
- ▶ 福祉避難所^{*}の対応マニュアルの作成 (*障がい者・高齢者の避難所)
- ▶ 市の非正規職員^{*}の正規職員への受験資格を緩和すること (*今年から会計年度任用職員と呼ぶ)
- ▶ 性の多様性尊重のため、全ての教職員へのLGBT研修を行うこと
- ▶ ヤングケアラーを含めケアラー(介護者)の実態調査を行うこと
- ▶ 各区の公民館でこども食堂が開けるようにすること
- ▶ 脱プラスチックを進めるため、公共施設に給湯給水器を導入すること
- ▶ 高齢者の移動手段として、民間事業者の送迎バスを活用すること
- ▶ 地域住民が集う場所や地域団体の活動拠点として、空き家、空き店舗を活用できる仕組みをつくること
- ▶ 地域に根差した図書館運営を進めるため、窓口の委託業務は増やさないこと

全文はこちらから



給食プロジェクト

土がふわふわの自然農法の畑

7月に見学に行った花見川区のマイラブファームさんは、千葉市の新規就農者研修を経て農業を始められ、今年8月で丸3年。土の中の微生物など自然の力、植物が本来持つ力を活かして、無農薬で野菜を育てています。「ピーマンの隣に落花生などマメ科の作物を植えると、互いの害虫を遠ざけ、生育を助け合う」というお話を聞き、生物が互いに支え合う地球の仕組みについて改めて考えさせられました。「こんな野菜を学校給食で使ってほしい」という声が上がりましたが、1生産者では量が足りない問題等をどう解決するかが課題です。

11月には全市の給食で有機米を使っているいすみ市のお話を聞いて、参考にしたいと考えています。(岩崎)



右端が農場主の山際さん



ペットとの共生社会をめざすプロジェクト

動物保護指導センター訪問記

稲毛区宮野木町にある千葉市動物保護指導センターへ行ってきました。政令市になった翌年、1993年に開所し、その後、1999年・2005年・2012年・2019年の法改正で、センターの目的も野犬の保護・犬の登録・予防注射の実施が中心の時代から、終生飼養・適正飼養の普及啓発や譲渡促進など、動物愛護が主要業務の時代へと変化しました。今は使われていない殺処分用の焼却炉が痛々しく感じられます。

「人と動物の共生」についてセンターが広く情報発信し、より多くの市民がボランティアや寄付に関わることができるよう、時代の変化に応じた仕組みづくりの重要性を痛感しました。(松井)



今日連れてこられた子猫



保護された犬

IRプロジェクト

「カジノ」活動 いったん終了

2020年1月7日、市長が国へのIR申請見送りを表明した後、新型コロナウイルス感染拡大による活動自粛を経て、10月10日、「カジノ問題を考える千葉市民の会」総会が開かれました。そこでの「IRに関する情報提供依頼報告書(市が3月に公表)」に関する市職員の説明では、幕張新都心エリアでのIR事業は成立しうるが、経済効果や懸念事項対策について精査が必要というものでした。

プロジェクトは一旦活動を終了します。しかし、IR誘致推進への警戒を怠ることはできません。来年の市長選挙では、候補者のIRに対する姿勢を必ず確認します。(山崎)

*IR=カジノを含む総合型リゾート

11月8日、市民ネットフックちば設立30周年記念行事として「こども食堂にて」の上映会と、市内こども食堂を紹介するパネルの展示をおこないました。「今、やるべきだ!」とこども食堂を始める決断をされた方、市内にこんなにもこども食堂があったのか、と驚かれた方もいらっしゃいました。コロナ禍で活動が制限される中、活路を見出す努力をしている団体と交流ができました。また、この10年間の活動をまとめた記念誌も発行しました。ご希望の方はご連絡ください。

市民ネットフックちば代表 山田京子



30周年を迎えて